

「来て、見なさい」

(ヨハネによる福音書 1:43-51)

今日の福音書は、フィリポとナタナエルの召命物語です。この箇所を、「**εύρίσκω**」(ヒューリスコー)という単語に注目して読んでみます。これは、「出会う」などと訳されるギリシャ語です。今日の箇所では、以下のように用いられています。

1:43 Τῇ ἐπαύριον ἠθέλησεν ἐξελθεῖν εἰς τὴν Γαλιλαίαν καὶ εύρίσκει Φίλιππον. καὶ λέγει αὐτῷ ὁ Ἰησοῦς· ἀκολούθει μοι.

その翌日、イエスは、ガリラヤへ行こうとしたときに、フィリポに出会って、「わたしに従いなさい」と言われた。

1:45 εύρίσκει Φίλιππος τὸν Ναθαναὴλ καὶ λέγει αὐτῷ· ὃν ἔγραψεν Μωϋσῆς ἐν τῷ νόμῳ καὶ οἱ προφῆται εύρήκαμεν, Ἰησοῦν υἱὸν τοῦ Ἰωσήφ τὸν ἀπὸ Ναζαρέτ.

フィリポはナタナエルに出会って言った。「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」

下線で記したところが、**εύρίσκω** を訳したところです。「出会い」には、たとえば、ただ自己紹介をし合うだけの「出会い」から、相手に心底惚れ込んでしまうほどの「出会い」まで、いくつものレベルがあります。フィリポもナタナエルも、今日の箇所、主イエスの弟子になってしまう、それほどの出会いをしました。ヨハネによる福音書では、今日の直前の箇所のアンデレの召命の箇所などでも **εύρίσκω** を用いて、主イエスとの真の意味での出会いの大切さを伝えています。9章の「盲人のいやし」の記事においては、目が開かれた男が信じるべき「救い主」としてイエスと出会う場面で **εύρίσκω** が用いられています。今日の箇所を読むわたしたちも、主イエスとの真の出会いへと招かれています。

主イエスとの真の意味での出会いとは、どうしたら起こるのでしょうか。今日の箇所によれば、主イエスとの出会いは、「見る」ことによって始まります。ナタナエルの「ナザレから何か良いものが出るだろうか」(1:46)という言葉に対して、フィリポは「来て、見なさい」と言いました。「見る」ことが、「出会い」には不可欠なのです。けれども、この出会いは、主イエスが先に見つけてくださっているからこそ起こるものです。フィリポもナタナエルも先に見つけたのは主イエスでした。主イエスによって見つけられることから、フィリポにもナタナエルにも転換が起こります。主イエスがフィリポ、ナタナエルを見つけたとき、彼らのうちに主イエスという存在が入り込みます。彼らはただ、その主イエスを「見る」ことだけで十分でした。自分を見つめている主イエスの眼差しを感じ、その眼差しの方へと目を向けるとき、わたしたちはもう、主イエスとの真の出会いへと迎えられます。なぜなら、その眼差しは、十字架上で自らの命を賭けてまでもわたしたちを愛し抜いてくださる眼差しだからです。フィリポもナタナエルも、自分を先に見つけた主イエスの眼差しから、そこにある深い愛を受け取ったのです。ただ、それがなにかはつきり分かったわけではないでしょう。けれども「弟子にしてほしい」と願うほどに、心動かされる眼差しが自らに向けられていることを、彼らは確かに知ったのです。

いつでもわたしたちを見つめてくださっている主イエスのことを見続け、その眼差しに込め

られた愛に留まるところに、わたしたちもまた弟子たちと同じように、本当の救い主として、主イエスと出会うことができるのです。「わたしに従いなさい。」という主イエスの招きに応えるということは、主イエスの眼差しに込められた愛に生かされ、今度はその愛に応じて自らも愛に生きようとすることです。主イエスと真に出会い、愛のうちに生かされるために、たとえ疑いのなかにある時も、フィリポの「来て、見なさい。」という誘いの言葉を忘れずにいたいと願います。